

2015年10～11月

JCJジャーナリスト講座のお知らせ

日本ジャーナリスト会議(JCJ)は2011年秋から、ジャーナリズムの世界で働くことを目指す人やマスコミのあり方に関心ある人たちのために、ジャーナリスト講座を開いてきました。今秋も下記日程で講座を開きます。記者とはどのような仕事をするのか、その社会的な役割などについて、現場の記者やOBの方々から、率直なお話をさせていただきます。文章の腕を磨く講座もあります。多くの人たちの参加をお待ちしています。

【開催日時とテーマ・講師】

- ★10月4日(日)午後1時半から5時＝東京・日比谷図書文化館小ホールで
「記者の仕事とは——原発事故被災者取材で考えた」
毎日新聞特別報道グループ・日野行介記者
- ★10月10日(土)午後1時半から5時＝東京・日比谷図書文化館小ホールで
「現場記者座談会——辛さ・面白さを縦横に語る」
朝日新聞社会部・青木美希記者、沖縄タイムス東京支社編集部長・宮城栄作記者、東京新聞政治部・原田悟記者
- ★10月21日(水)午後6時半から9時半＝東京・日比谷図書文化館小ホールで
「海外取材・調査の理論と実践」
三井物産戦略研究所主席研究員・白戸圭一氏(元毎日新聞ワシントン特派員)
- ★10月31日(土)午後1時半から5時＝日比谷図書文化館セミナールームB
「相手に伝わる報道文章の書き方」① 高知新聞・高田昌幸記者
- ★11月1日(日)午後1時半から5時＝会場未定(東京都中央区内・10月2日に決めます)
「相手に伝わる報道文章の書き方」② 高知新聞・高田昌幸記者
- ★11月7日(土)午後1時半から5時＝東京・神保町の岩波セミナールーム
「地方紙記者の新たな役割——中央と地方の複眼思考」(仮題)
神奈川新聞記者と他の地方紙記者との対談予定
- ★11月18日(水)午後6時半から9時＝東京・神保町の岩波セミナールーム
「組織内記者の働き方——新聞社に就職して記者になるとは」
共同通信編集局企画委員・美浦克教記者
- ★11月23日(月)午後1時半から5時＝東京・日比谷図書文化館小ホール
「テレビ報道番組の現場」

日本テレビ報道局チーフプロデューサー・谷原和憲氏
（「真相報道バンキシャ！」を担当）

【参加要領】

資料代：報道文章講座を除き、各回とも 1000 円(定員 40 人)

（報道文章講座のみ 2 回参加で 4000 円＝定員 18 人）

要予約：参加希望の方は氏名・希望日・連絡先電話番号。メールアドレスを明記して、下記へメールでお申し込みください。確認メールをお送りします。

宛先：icj13kouza@yahoo.co.jp

なお、報道文章の書き方講座(10月31日と11月1日)への参加ご希望の方は10月10日までに800字の作文(テーマは「安全」「日本」「記憶」のいずれかで一つを選ぶ)をあらかじめ上記アドレスにメールでお送りください。選考のうえ、ご連絡します。貴意に沿えない場合もございますが、どうぞご了承ください。

主催：日本ジャーナリスト会議

東京都千代田区神田神保町 1-18-1 千石屋ビル 402 号

電話 03・3291・6475 ファクス 03・3291・6478

【会場のご案内】

◎日比谷図書文化館 小ホール(4階) セミナールーム B(4階)

東京都千代田区日比谷公園 1-4

地下鉄・内幸町か霞ヶ関駅から徒歩から近い

◎岩波セミナールーム

東京都千代田区神田神保町 2-3

岩波ブックセンターが入るビルの 3 階(階段は裏手に)

地下鉄・神保町駅から徒歩からすぐ

【講師の略歴＝敬称略】

▽日野行介(ひの・こうすけ)

九州大学法学部卒。1999年毎日新聞社入社。大津支局、福井支局敦賀駐在、大阪社会部・科学環境部を経て東京社会部。現在は特別報道グループ。大阪社会部では検察、裁判の担当が長く、東京異動後は原発事故による住民の被ばくや避難の問題を取材している。著書に『「福島原発事故 県民健康管理調査の闇」』『福島原発事故 被災者支援政策の欺瞞』（いずれも岩波新書）がある。第8回疋田桂一郎賞受賞。

▽青木美希(あおき・みき)

札幌出身。1997年、北海タイムス入社、98年、北海タイムス休刊、北海道新聞入社。旭川と札幌で勤務、社会や政治を取材。北海道警裏金問題(2003年11月から約1年のキャンペーン報道)など手がける。2010年9月、朝日新聞入社、東京本社社会部。11年9月に特別報道部へ。原発事故検証企画「プロメテウスの罠」などに参加。13年、特別報道部の「手抜き除染」報道を手がける。取材班は新聞協会賞を受賞した。2015年4月から東京本社社会部武蔵野支局。

▽宮城栄作(みやぎ・えいさく)

1971年、那覇市生まれ。上智大学卒業後、1998年に沖縄タイムス社入社。編集局の社会部、通信部、政経部などをへて2014年から東京支社報道部長（現職）。沖縄タイムス取材班編『沖縄が長寿でなくなる日』（2004年、岩波書店）分担執筆。

▽原田悟(はらだ・さとる)

1968年、東京生まれ。上智大卒。1991年中日新聞社に入社。長浜通信局（滋賀県）、名古屋本社社会部、岐阜総局、横浜支局を経て2001年から政治部。首相官邸、自民党、民主党などを担当し、02年の小泉首相訪朝と北朝鮮による拉致被害者の帰国問題、05年の郵政解散、09年の政権交代選挙などを取材。現在は政治部デスク。安全保障関連法案の報道で、15年に政治部として日本ジャーナリスト会議（JCJ）賞を受賞。東京新聞政治部編『読むための日本国憲法』（文春文庫）を分担執筆。

▽白戸圭一(しらと・けいいち)

三井物産戦略研究所主席研究員。京都大学大学院客員准教授。京都大学アフリカ地域研究資料センター特任准教授。専門はサブサハラ・アフリカ地域の安

全保障問題・経済情勢の分析。1970年埼玉県生れ。95年立命館大学大学院国際関係研究科修士課程修了。同年毎日新聞社入社。鹿児島支局、福岡総局、外信部、政治部などで勤務。2004~08年、南アフリカ・ヨハネスブルク特派員。2011~14年、米国ワシントン特派員。2014年3月で毎日新聞を退社し、現職へ。『ルポ 資源大陸アフリカ』（東洋経済新報社）で2010年の日本ジャーナリスト会議賞受賞。他の著書に『日本人のためのアフリカ入門』（ちくま新書）など。

▽高田昌幸(たかだ・まさゆき)

1960年高知県生まれ。法政大学を卒業後、1986年に北海道新聞社入社。経済部、東京政治経済部などを経て、報道本部次長、ロンドン支局長を務める。2011年に退社。2012年から高知新聞記者。北海道新聞時代の1996年、「北海道庁の公費乱用」報道の取材班メンバーとして新聞協会賞、日本ジャーナリスト会議(JCJ)賞奨励賞を受賞。2004年に「北海道警察の裏金問題」報道の取材班代表として新聞協会賞、菊地寛賞、JCJ大賞などを受賞。著書・共著に『権力 vs 調査報道』『真実——新聞が警察に跪いた日』『メディアの罨』『伝える技法』など。

▽美浦克教(みうら・かつのり)

1960年生まれ、福岡県北九州市出身。1983年に共同通信社入社。社会部記者として司法や公取委を取材。横浜支局デスクを経て、社会部デスクでは防衛、自衛隊のイラク派遣などを担当した。社会部副部長、大阪支社整理部長などを経て今年2月から編集局企画委員。記事審査などを担当。2004年から2年間、新聞労連委員長。

▽谷原和憲(たにはら・かずのり)

1961年生まれ、1985年に日本テレビ放送網に入社、報道局に配属、今日までテレビ報道歴30年。社会部記者・デスクとしては、事件事故・災害などの多くの現場取材を経験。その後、東日本大震災前後の5年間は「NNNドキュメント」チーフプロデューサー。現在は「真相報道バンキシャ！」チーフプロデューサー。専門は災害報道。日本災害情報学会など所属。